



2021年3月期 第3四半期連結決算の概要

[2020年度]

2021年2月3日

株式会社日立製作所
執行役専務 CFO

河村 芳彦

Contents

1. 今回のポイント
2. 2020年度 第3四半期累計 実績
3. 2020年度 見通し
4. 参考資料



1. 今回のポイント

1

DX需要に対応、ITセグメントが業績を牽引

- ・ 厳しい事業環境の中、ITセグメントは過去最高の調整後営業利益^{*1}率13.5%を達成
- ・ Lumadaアライアンスプログラムにより、協創を通じたLumada事業の拡大を加速中

2

中国事業の拡大を推進

- ・ エレベーター・エスカレーターのシェア拡大を推進するビルシステム事業が堅調
- ・ 市況の回復を受けたオートモティブシステム事業の中国事業が拡大

3

環境価値・社会価値に貢献する事業の拡大

- ・ 日立AstemoがxEV関連事業の拡大を推進中
- ・ 日立ABBパワーグリッドは脱炭素社会に貢献するエネルギーソリューション事業を展開中
売上、受注ともに堅調に推移(3Q受注高: 29億米ドル、受注残高: 約120億米ドル)
- ・ COVID-19感染拡大を防ぐソリューションの提供を推進中(ビルシステム事業など)

4

営業CFは前回見通しを上回る水準で推移

- ・ さらなるキャッシュ・マネジメントにより、営業CF 5,500億円をめざす

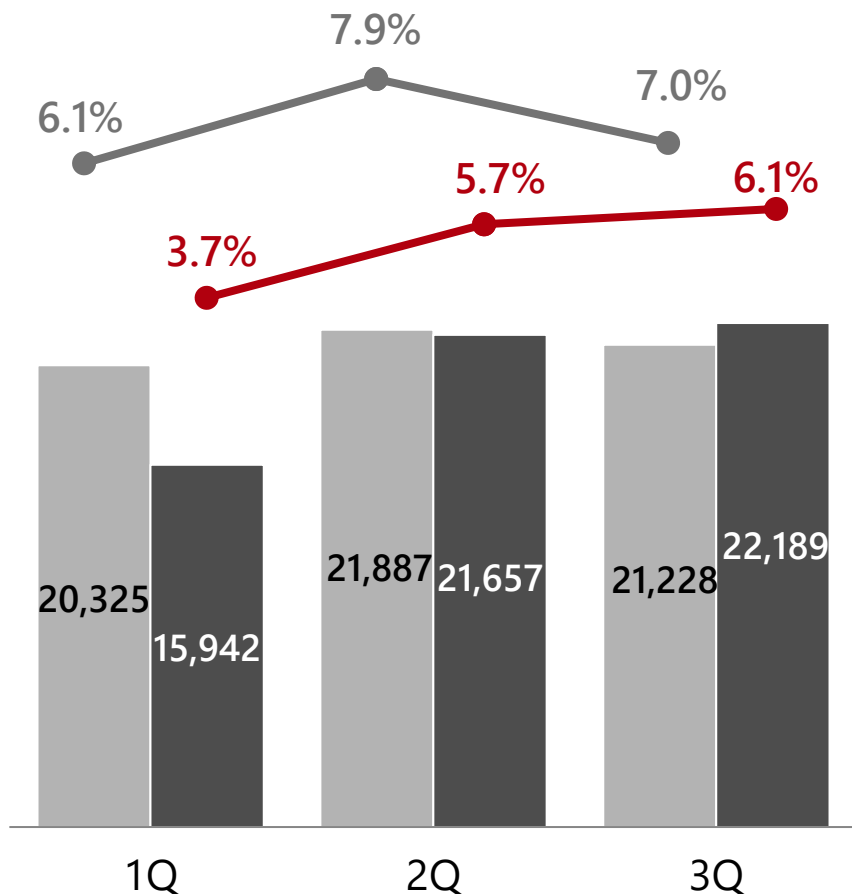
収益性の改善状況

連結合計 (FY19 vs FY20 同期比較)

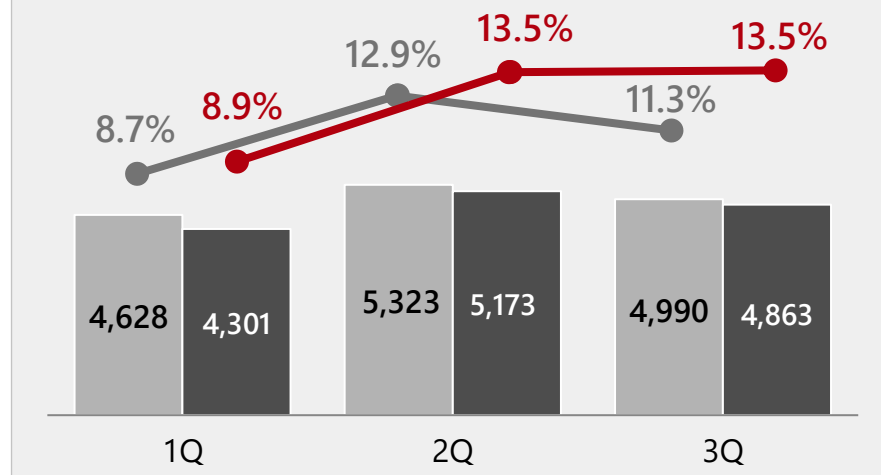
単位：億円

■ FY19 売上収益 ■ FY20 売上収益

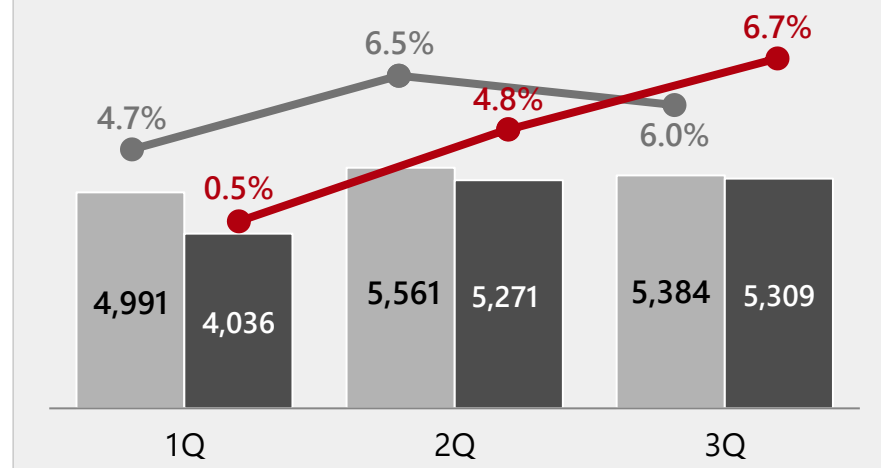
● FY19 調整後営業利益率 ● FY20 調整後営業利益率



IT：コスト構造の継続的な改善により、収益性が向上



ライフ：生活・エコシステム事業・オートモティブシステム事業が堅調

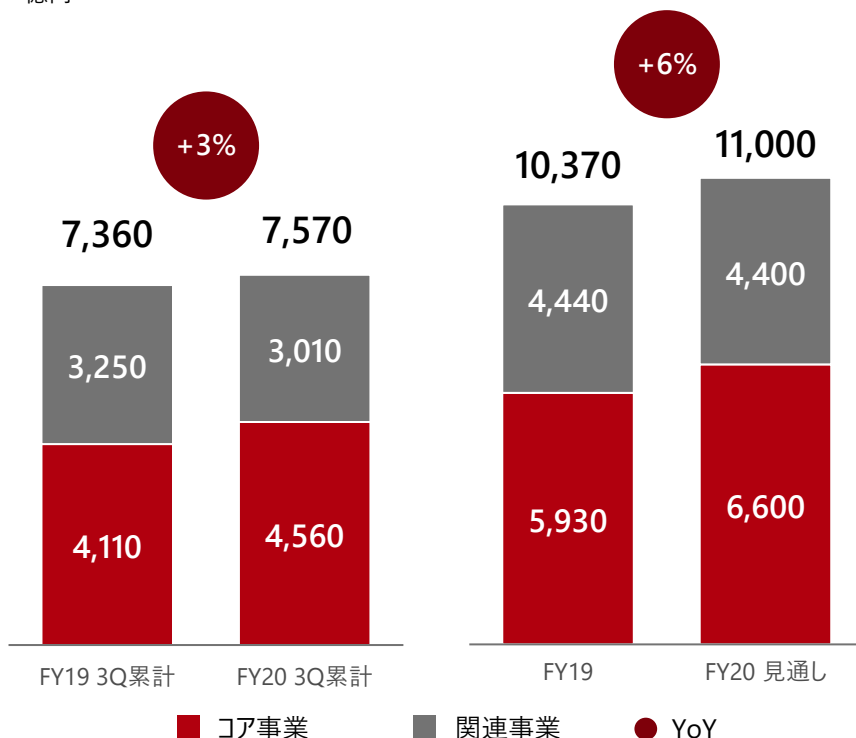


多様なパートナーとのエコシステムを構築するLumadaアライアンスプログラムを開始、Lumada事業拡大を加速



Lumada事業 売上収益

単位：億円



日立ABBパワーグリッドの業績は含まれていません

モビリティ：ビル向けIoTプラットフォーム

マイクロソフトのクラウドを利用し、ビル管理の効率化、利用者の快適性向上など、ビルの高付加価値化を実現するIoTプラットフォーム「BuilMirai(ビルミライ)」を開発

インダストリー：安全運行管理トータルサポート

日立、日立物流、日立キャピタルが、ドライバーの生体・運転データをAIで分析することで安全運行管理をトータルサポートするサービスの外販に向けて協業を開始

エネルギー：資産管理等のデジタルソリューション群

日立ABBパワーグリッドの資産管理等のデジタルソリューション群をLumadaに統合し、日立ヴァンタラと共に提供開始。業界をリードする同社のソリューションとLumadaのシナジーを発揮し、お客さまの価値向上に貢献

日立オートモティブシステムズとケーヒン・ショーワ・日信工業の統合会社である日立Astemoが営業開始

- 4社の強みを結集し、電動化・自動運転・コネクテッドなど次世代技術の開発を加速
注力分野におけるグローバルリーダーシップポジションの獲得をめざす

トルコのアルチェリクと日立グローバルライフソリューションズが海外の白物家電事業で合併会社設立に合意

- 販売網の拡大により成長機会を創出し、日立ブランド製品のグローバル販売推進をめざす

環境関連事業の拡大

- 日立ABBパワーグリッドが、再生可能エネルギーの活用と脱炭素社会の実現に向けて、ドイツ・ノルウェー間をつなぐ初のHVDC連系システムの通電試験を開始
- エバーショルト・レール社と英国都市間鉄道向け蓄電池ハイブリッド鉄道車両導入に向けた契約を締結

社会価値向上に貢献する事業を推進

- エレベーター用感染症リスク軽減ソリューションを強化、「非接触登録装置」や「かご内クリーン運転」、「密集回避運転」ソリューションを販売開始
- 東京ドームのプロ野球公式戦における感染対策のための技術実証に「人流可視化ソリューション」を導入



2. 2020年度 第3四半期累計 実績

- 3Q：日立化成売却による減収・減益影響があるも、パワーグリッド事業が堅調に推移し増収
- 3Q累計：パワーグリッド事業買収による増収影響があるも、日立化成売却や市況悪化により全体として減収。ITは過去最高の調整後営業利益率12.1%を達成

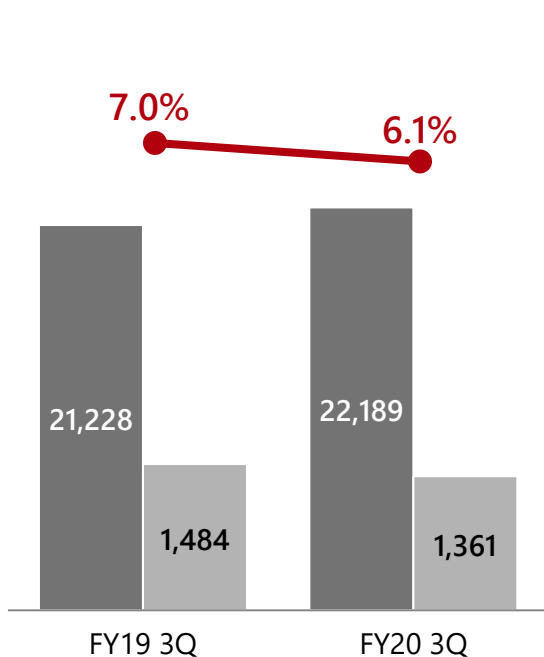
FY20 3Q

売上収益

22,189億円 (YoY +5%)

調整後営業利益

1,361億円 (YoY △123億円)



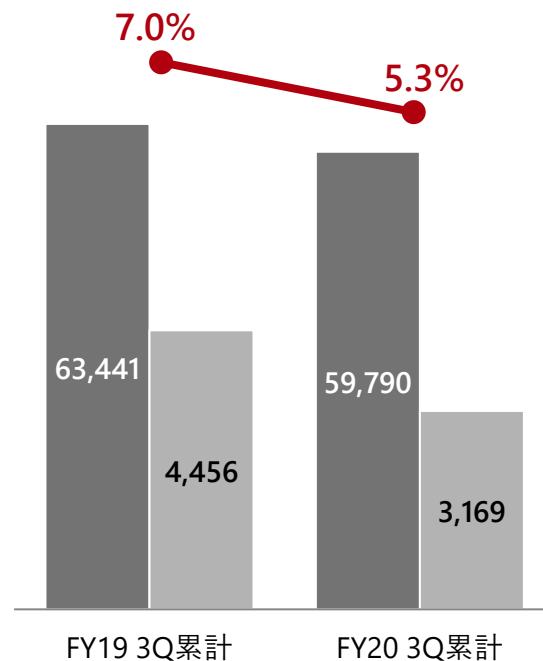
FY20 3Q累計

売上収益

59,790億円 (YoY △6%)

調整後営業利益

3,169億円 (YoY △1,287億円)



■ 売上収益 ■ 調整後営業利益 ● 調整後営業利益率 単位：億円

海外売上収益 (3Q累計)

31,679億円 (YoY △1%)

Lumada事業売上収益 (3Q累計)

7,570億円 (YoY +3%)

EBIT*2 (3Q累計)

5,035億円 (YoY +4,485億円)

四半期利益 (親会社株主帰属) (3Q累計)

3,078億円 (YoY +2,527億円)

EBITDA*3 (3Q累計)

8,554億円 (YoY +4,823億円)

営業キャッシュ・フロー (3Q累計)

4,264億円 (YoY +1,185億円)

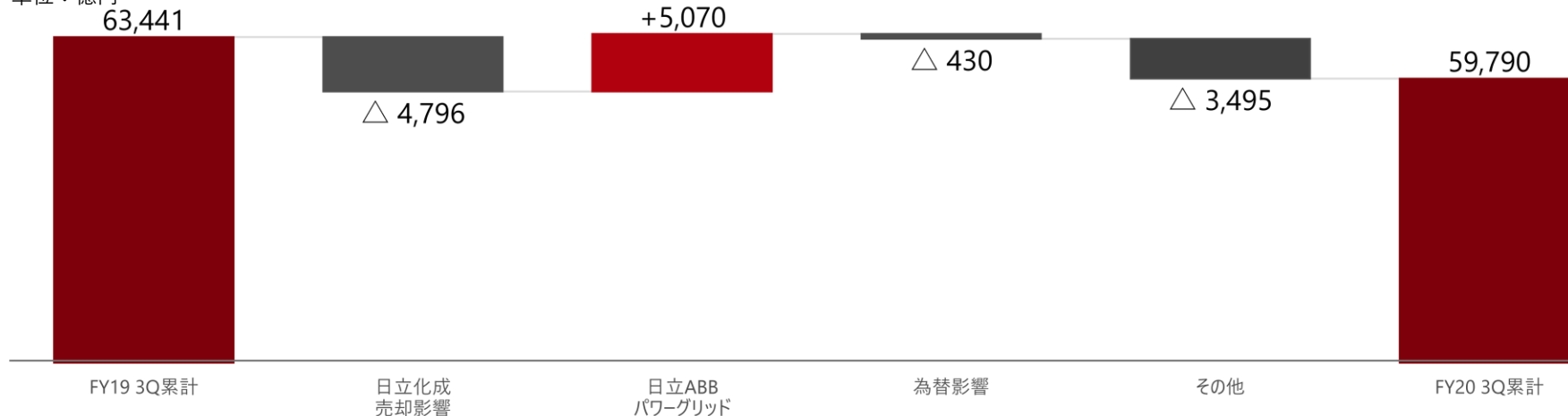
5セクター・上場子会社別 実績 (FY20 3Q累計)

- 5セクター：増収減益(パワーグリッド事業の買収による増収)
- 上場子会社：減収減益(日立化成売却や日立建機・日立金属での市況悪化)

単位：億円	5セクター*4 [IT、エネルギー、インダストリー、 モビリティ、ライフ]	上場子会社*5 [日立建機、日立金属]	連結 合計
売上収益	48,788	11,001	59,790
YoY	108%	60%	94%
調整後営業利益	3,080	89	3,169
YoY	△395	△891	△1,287
調整後営業利益率	6.3%	0.8%	5.3%
YoY	△1.4ポイント	△4.5ポイント	△1.7ポイント
EBIT	5,282	△ 246	5,035
YoY	+5,029	△543	+4,485
EBIT率	10.8%	△2.2%	8.4%
YoY	+10.2ポイント	△3.8ポイント	+7.5ポイント
四半期利益(損失)(親会社株主帰属)	3,244	△ 166	3,078
YoY	+2,648	△121	+2,527

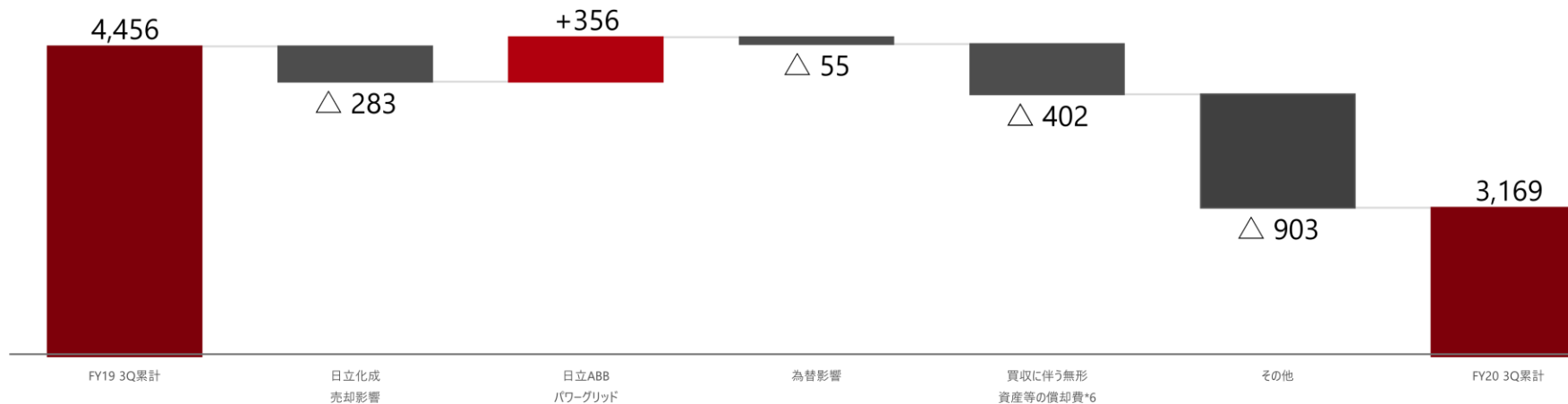
売上収益

単位：億円



調整後営業利益

単位：億円



財政状態

単位：億円	2019年度末	2020年度 第3四半期末	比較増減
資産合計	99,300	109,414	+10,113
現金及び現金同等物	8,123	9,172	+1,049
売上債権及び契約資産	22,602	23,622	+1,020
負債合計	56,633	72,945	+16,311
有利子負債	14,850	26,004	+11,153
親会社株主持分	31,599	29,283	△2,316
非支配持分	11,067	7,185	△3,881
運転資金手持日数 (CCC)	74.2日	78.3日	+4.1日
親会社株主持分比率	31.8%	26.8%	△5.0ポイント
D/Eレシオ	0.35倍	0.71倍	+0.36ポイント

キャッシュ・フロー

単位：億円	2019年度 3Q累計	2020年度 3Q累計	前年同期比
営業キャッシュ・フロー	3,078	4,264	+1,185
投資キャッシュ・フロー	△4,920	△7,660	△2,740
フリー・キャッシュ・フロー	△1,841	△3,396	△1,555
コア・フリー・キャッシュ・フロー ^{*7}	75	1,817	+1,742

3. 2020年度 見通し

売上収益

YoY 5%減収

前回見通し比 5%増収

日立Astemo統合影響等により
前回見通しを上方修正

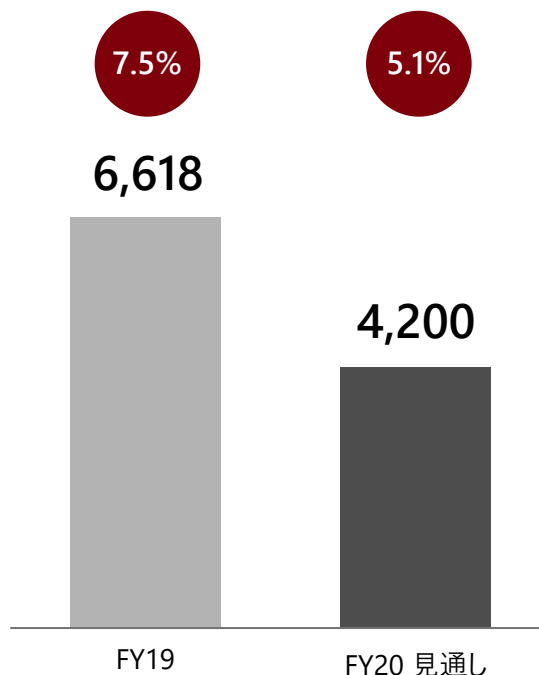


調整後営業利益

YoY Δ 2,418億円

前回見通し比 +200億円

ITセグメントやインダストリーセグメントの
デジタルソリューション事業が堅調に推移
前回見通しを上方修正



● 調整後営業利益率 単位：億円

Lumada事業売上収益

11,000億円 (YoY +6%)

EBIT

6,800億円

(YoY +4,963億円)

(前回見通し比 +940億円)

当期利益 (親会社株主帰属)

3,700億円

(YoY +2,824億円)

(前回見通し比 +700億円)

EBITDA

11,740億円

(YoY +5,549億円)

(前回見通し比 +1,210億円)

営業キャッシュ・フロー

5,500億円

(YoY Δ 109億円)

(前回見通し比 +500億円)

前提為替レート (FY20 4Q)

105円/ドル 120円/ユーロ

- 5セクター：ITセグメント、インダストリーセグメントは見通しを上方修正
- 上場子会社：市況の回復・収益改善施策により日立金属が上方修正

単位：億円	5セクター [IT、エネルギー、インダストリー、 モビリティ、ライフ]	上場子会社 [日立建機、日立金属]	連結 合計
売上収益	67,800	15,200	83,000
YoY	107%	62%	95%
調整後営業利益	3,910	290	4,200
YoY	△1,457	△961	△2,418
調整後営業利益率	5.8%	1.9%	5.1%
YoY	△2.7ポイント	△3.2ポイント	△2.4ポイント
EBIT	6,990	△190	6,800
YoY	+5,534	△570	+4,963
EBIT率	10.3%	△1.3%	8.2%
YoY	+8.0ポイント	△2.9ポイント	+6.1ポイント
当期利益(損失)(親会社株主帰属)	3,860	△160	3,700
YoY	+2,972	△148	+2,824

オートモティブシステム事業の業績見通し

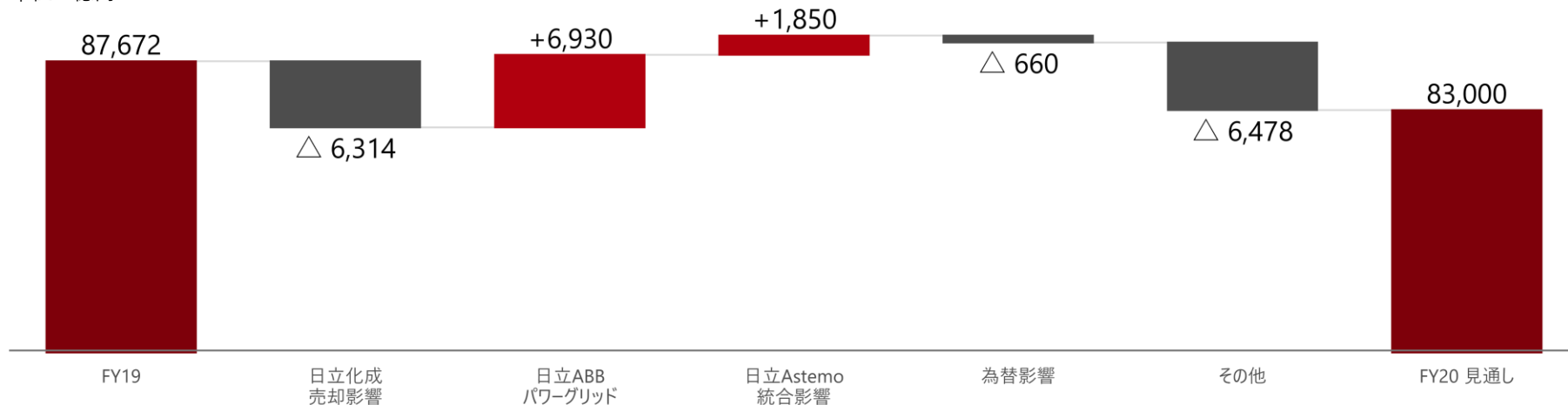
- 日立オートモティブシステムズとケーヒン・ショーワ・日信工業を統合し、日立Astemoを設立
- 注力分野で市場をリードし、FY21はEBITDA率 10%超をめざす

	前回見通し (統合影響除き)	前回見通し偏差		今回見通し (買収に伴う無形資産 等の償却費除き)	買収に伴う 無形資産等の 償却費	合計
		統合影響 (4Q)	その他			
単位：億円						
売上収益	7,490	+1,850	+400	9,740	—	9,740
調整後営業利益	220	+95	+5	320	△70	250
(一時費用除き)	(309)	(+114)	(+13)	(436)	—	
調整後営業利益率	2.9%			3.3%	—	2.6%
(一時費用除き)	(4.1%)			(4.5%)		
EBIT	90	+80	△270	△100	△70	△170
EBIT率	1.2%			△1.0%	—	△1.7%
Adjusted EBITA*8	240	+95	+5	340	0	340
Adjusted EBITA率	3.2%			3.5%	—	3.5%
EBITDA	610	+190	△280	520	0	520
EBITDA率	8.1%			5.3%	—	5.3%

売上収益・調整後営業利益 増減内訳 (FY20 連結合計)

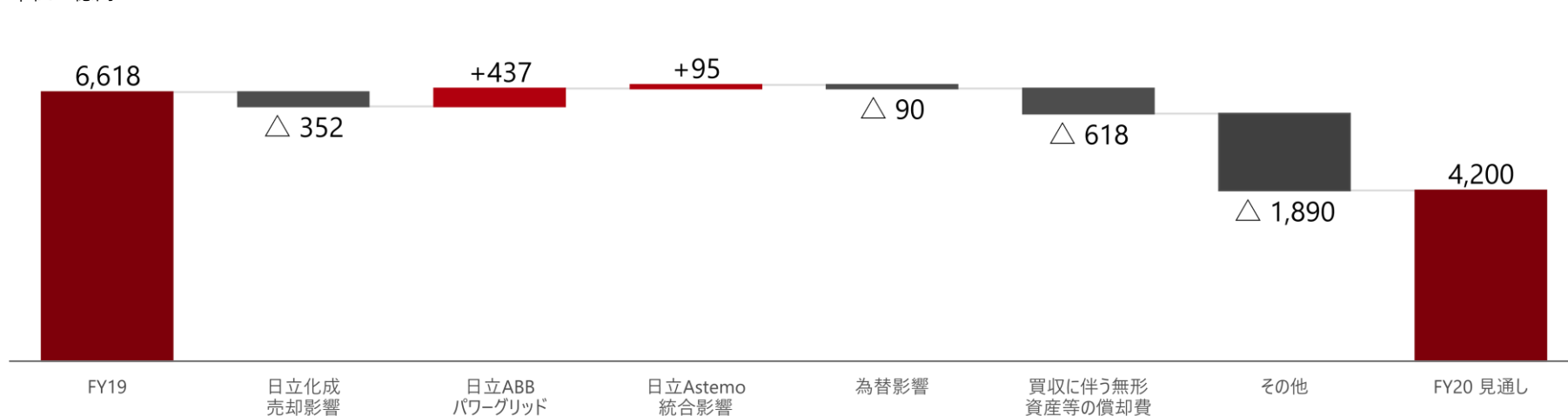
売上収益

単位：億円



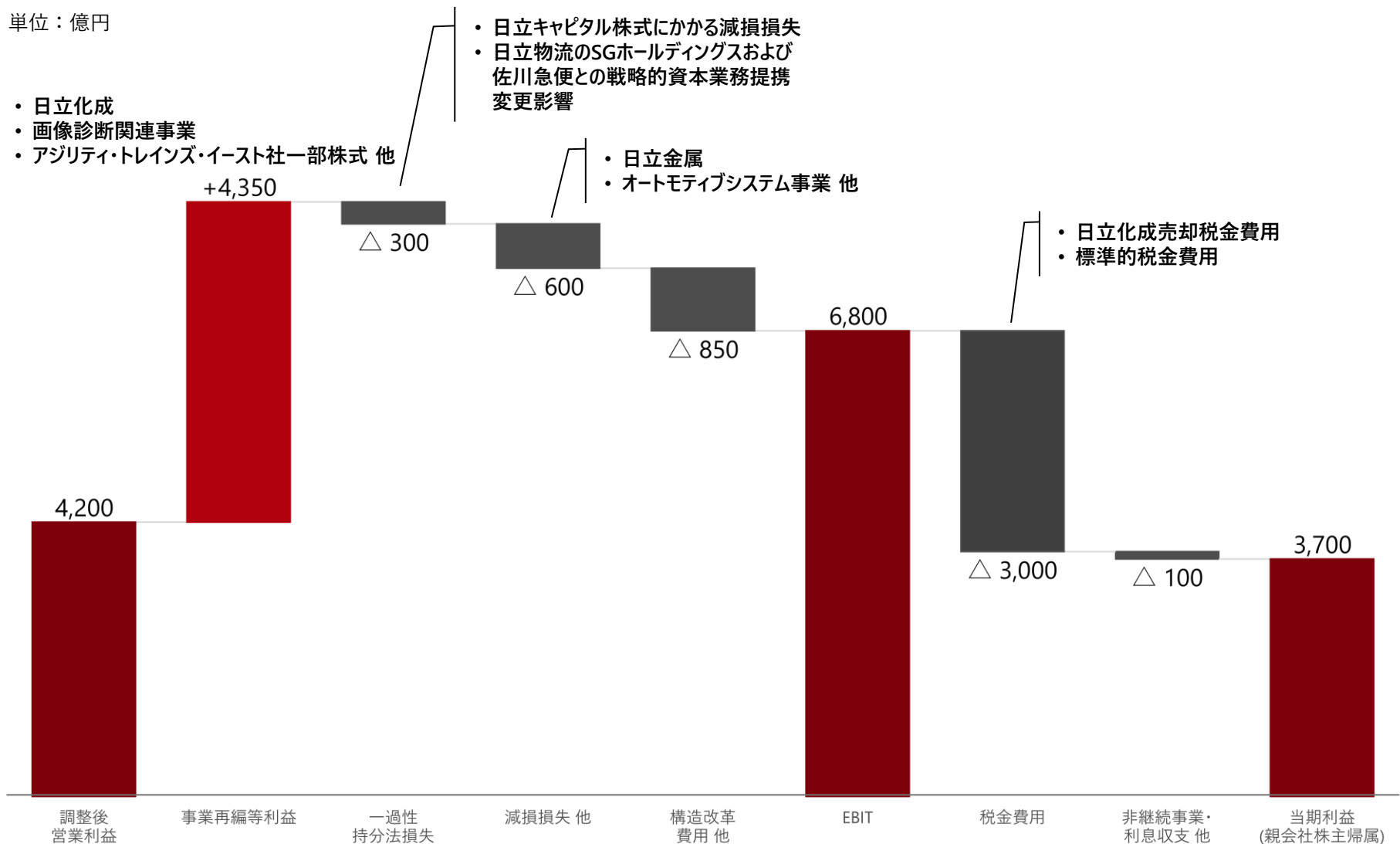
調整後営業利益

単位：億円



親会社株主に帰属する当期利益 内訳 (FY20 連結合計)

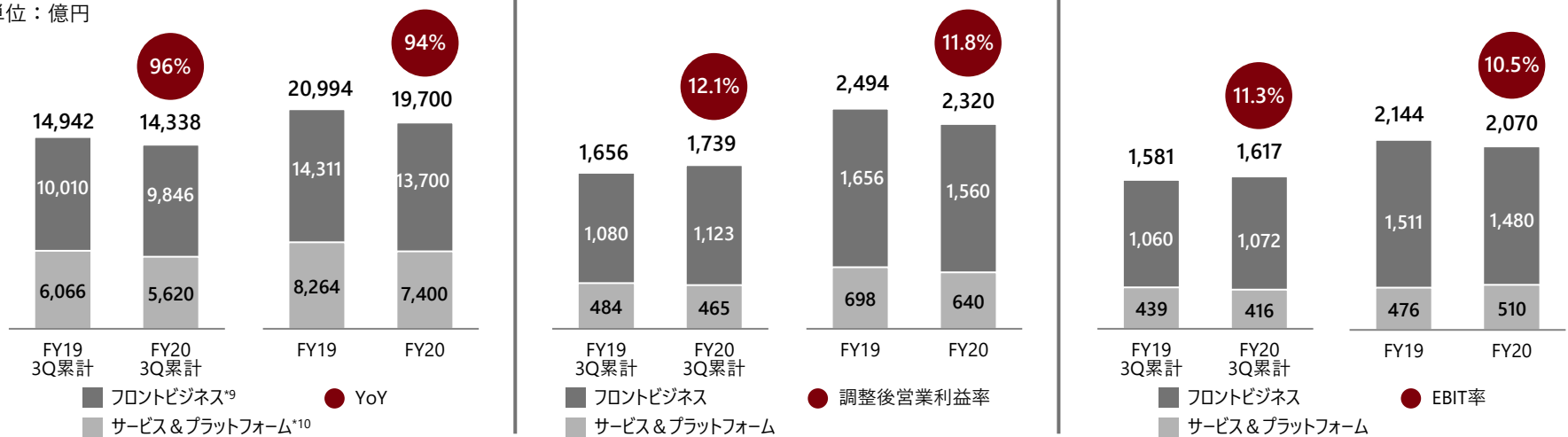
単位：億円



4. 参考資料

FY20 3Q累計は、過去最高の利益率12.1%を達成。FY20は、フロントビジネス・サービス&プラットフォームともに、コスト構造の改善を継続し、ニューノーマル需要への対応や既存事業におけるプロジェクト管理の徹底等により、厳しい事業環境下でも利益率は前年同水準を維持する見通し

単位：億円



売上収益

調整後営業利益

EBIT

2020年度 第3四半期累計

14,338億円 (YoY 96%)

- ⊖ 北米を中心とした海外売上減
- ⊖ 前年同期のITサービス好調の反動減 (一過性対応含む)

1,739億円 (YoY +82億円)

- ⊕ コスト構造の改善による収益性確保
- ⊖ 売上収益減少

1,617億円 (YoY +35億円)

- ⊕ 調整後営業利益増加
- ⊖ 前年同期の旧生産拠点の土地売却益減少

2020年度見通し (前回見通し比：調整後営業利益が150億円、EBITが150億円の増加)

19,700億円 (YoY 94%)

- ⊖ COVID-19影響
- ⊖ 前期ITサービス好調の反動減 (一過性対応含む)

2,320億円 (YoY △174億円)

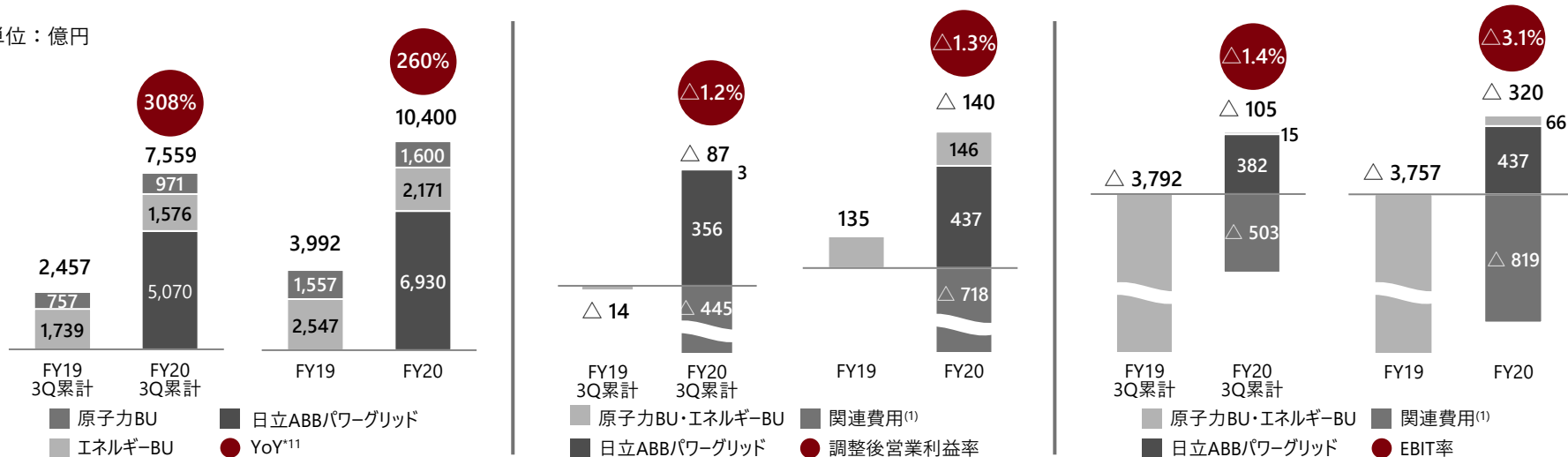
- ⊖ 売上収益減少
- ⊖ Lumada事業拡大に向けた戦略投資の継続

2,070億円 (YoY △74億円)

- ⊖ 調整後営業利益減少
- ⊕ 前期の事業構造改革費用の減少

買収に伴う無形資産等の償却費による調整後営業利益の減少があるも、日立ABBパワーグリッド・原子力BUの事業が堅調に推移

単位：億円



売上収益

調整後営業利益

EBIT

2020年度 第3四半期累計

7,559億円 (YoY 308%)

- ⊕ 日立ABBパワーグリッド
- ⊕ 原子力BUが堅調に推移

△87億円 (YoY △72億円)

- ⊖ 買収に伴う無形資産等の償却費
- ⊕ 売上収益増加
- ⊕ 原子力BUの収益性向上

△105億円 (YoY +3,686億円)

- ⊖ 調整後営業利益減少
- ⊕ 前期の南アフリカプロジェクトに係る和解に伴う損失

2020年度見通し (前回見通し比：売上収益が200億円の増加、調整後営業利益が60億円、EBITが20億円の減少)

10,400億円 (YoY 260%)

- ⊕ 日立ABBパワーグリッド
- ⊖ エネルギーBUの売上収益減少
- ⊖ COVID-19影響

△140億円 (YoY △275億円)

- ⊕ 売上収益増加
- ⊖ 買収に伴う無形資産等の償却費

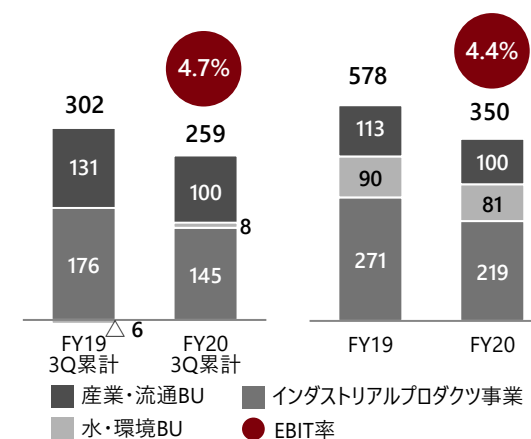
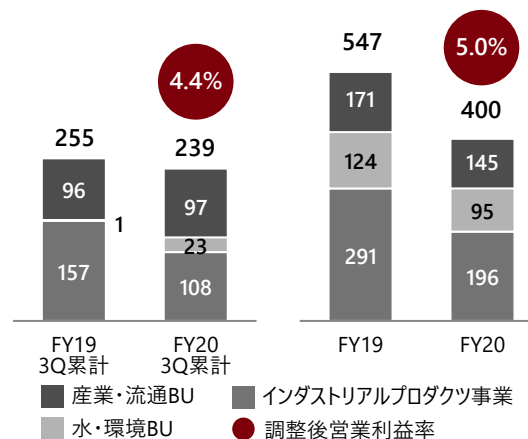
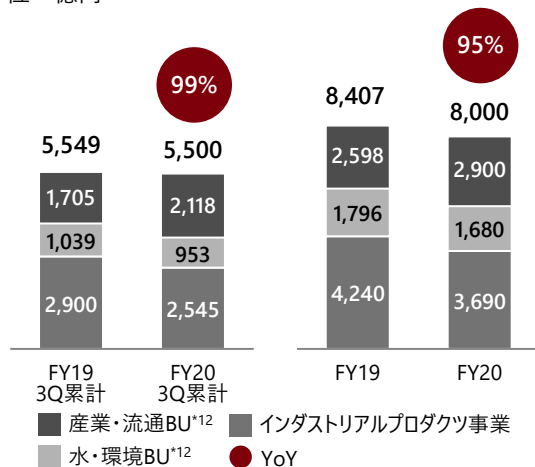
△320億円 (YoY +3,437億円)

- ⊖ 調整後営業利益減少
- ⊕ 前期の南アフリカプロジェクトに係る和解に伴う損失

(1) 関連費用には、日立ABBパワーグリッド設立に伴う無形資産等の償却費が含まれています

FY20 3Q累計はJRオートメーション買収影響があるも、市況悪化等によりほぼ横ばい
産業・流通BUのデジタルソリューション事業を中心に堅調に推移し、FY20見通しを上方修正

単位：億円



売上収益

調整後営業利益

EBIT

2020年度 第3四半期累計

5,500億円 (YoY 99%)

- ⊖ インダストリアルプロダクツ事業
- ⊕ JRオートメーション買収影響

239億円 (YoY △16億円)

- ⊖ 売上収益減少
- ⊕ コスト低減等による収益性改善

259億円 (YoY △42億円)

- ⊖ 持分法損益

2020年度見通し (前回見通し比：売上収益が200億円、調整後営業利益が10億円、EBITが30億円の増加)

8,000億円 (YoY 95%)

- ⊖ インダストリアルプロダクツ事業
- ⊕ JRオートメーション買収影響

400億円 (YoY △147億円)

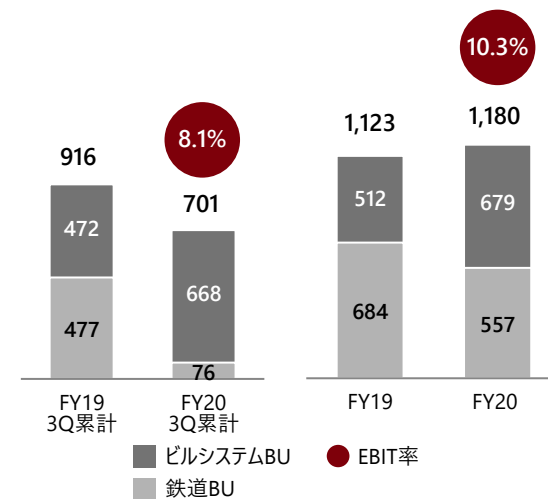
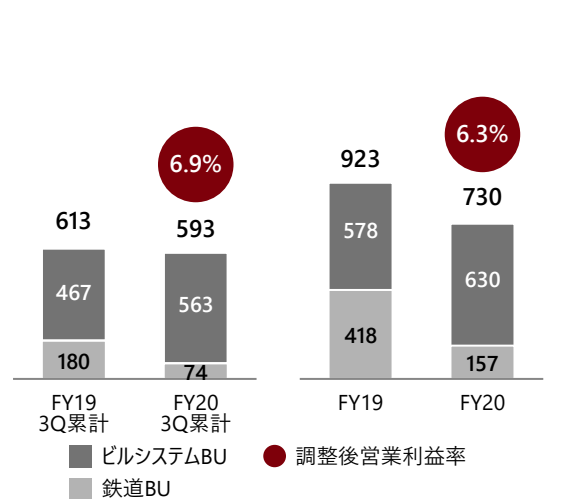
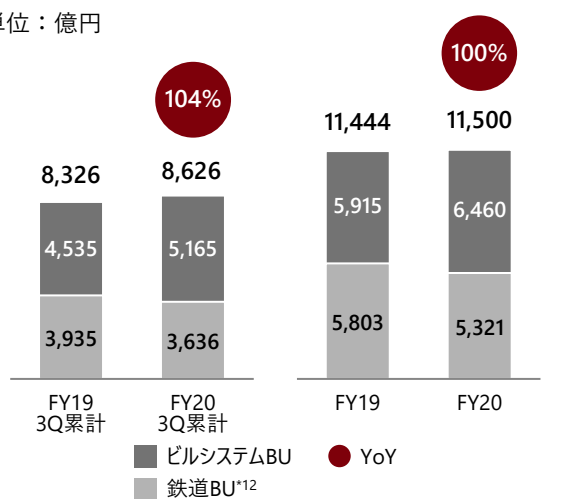
- ⊖ 売上収益減少
- ⊕ JRオートメーション買収影響・デジタルソリューション事業拡大による収益増加

350億円 (YoY △228億円)

- ⊖ 調整後営業利益減少

FY20 3Q累計の売上収益はビルシステムBUの中国事業拡大により増加
FY20見通しのEBITはアジリティ・トレインズ・イースト社一部株式の売却益により上方修正

単位：億円



売上収益

調整後営業利益

EBIT

2020年度 第3四半期累計

8,626億円 (YoY 104%)

- ⊕ ビルシステムBUにおける中国事業拡大
- ⊖ 鉄道BUにおける作業高減少

593億円 (YoY △19億円)

- ⊖ 鉄道BUにおける売上収益減少
- ⊕ ビルシステムBUにおける売上収益増加および原価低減等による収益性改善

701億円 (YoY △214億円)

- ⊖ アジリティ・トレインズ・ウエスト社一部株式の売却益減少
- ⊖ 調整後営業利益減少

2020年度見通し (前回見通し比：売上収益が300億円の増加、調整後営業利益が50億円の減少、EBITが430億円の増加)

11,500億円 (YoY 100%)

- ⊕ ビルシステムBUにおける中国事業拡大
- ⊖ 鉄道BUにおける作業高減少

730億円 (YoY △193億円)

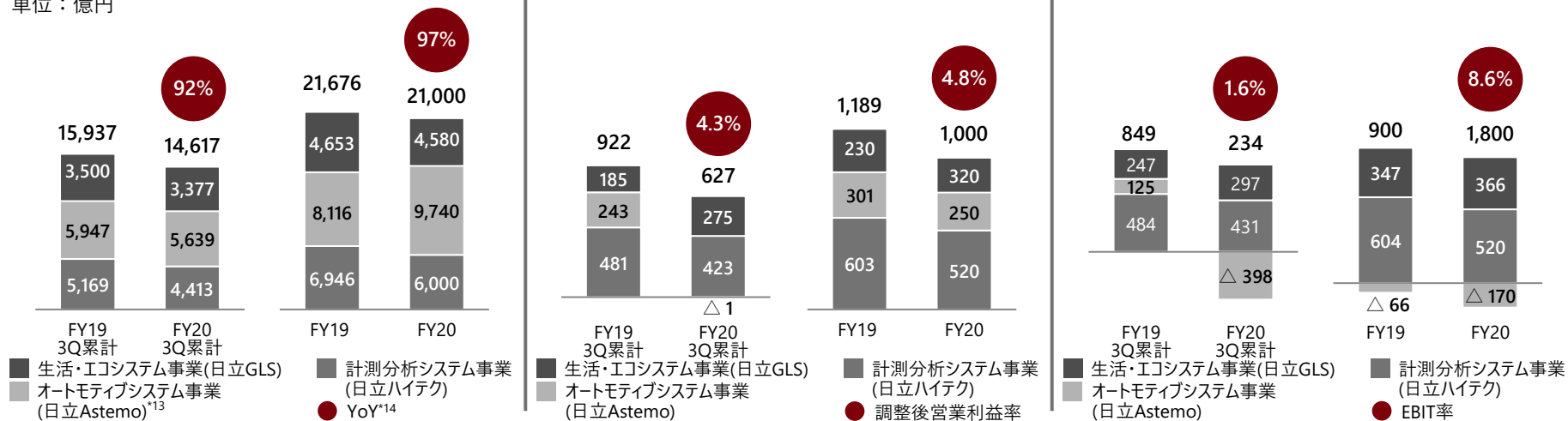
- ⊖ 鉄道BUの売上収益減少
- ⊕ ビルシステムBUにおける売上収益増加および原価低減等による収益性改善

1,180億円 (YoY +56億円)

- ⊕ アジリティ・トレインズ・イースト社一部株式の売却益
- ⊖ 調整後営業利益減少

FY20 3Q累計はオートモティブシステム事業の北米・日本における販売減少等により減収減益
FY20は日立Astemoの設立により売上収益の見通しを上方修正

単位：億円



売上収益

2020年度 第3四半期累計

14,617億円 (YoY 92%)

- ⊖ 計測分析システム事業(日立ハイテク)の商事部門等における需要減少
- ⊖ オートモティブシステム事業における北米・日本における販売減少

2020年度見通し (前回見通し比：売上収益が2,000億円の増加、EBITが200億円の減少)

21,000億円 (YoY 97%)

- ⊖ COVID-19影響
- ⊖ 計測分析システム事業(日立ハイテク)の商事部門等における需要減少
- ⊕ 日立Astemo統合影響

調整後営業利益

627億円 (YoY △294億円)

- ⊖ 売上収益減少

1,000億円 (YoY △189億円)

- ⊖ 売上収益減少
- ⊕ 家電事業における収益性改善

EBIT

234億円 (YoY △615億円)

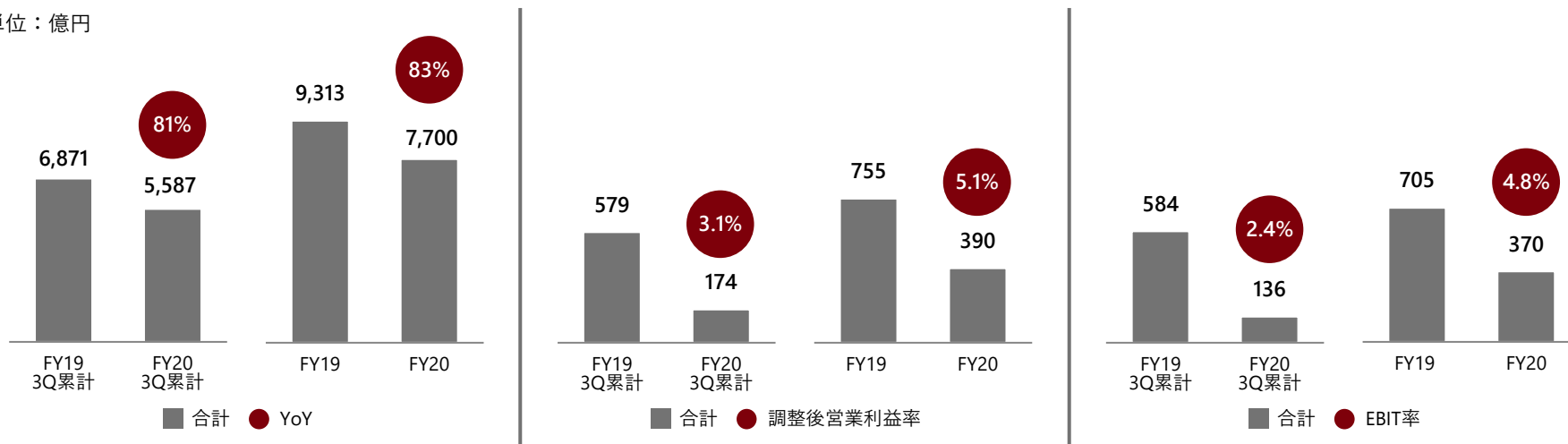
- ⊖ 調整後営業利益減少
- ⊖ オートモティブシステム事業における固定資産の減損損失

1,800億円 (YoY +899億円)

- ⊖ 調整後営業利益減少
- ⊖ オートモティブシステム事業における固定資産の減損損失
- ⊕ 画像診断関連事業の売却益

FY20 3Q累計はCOVID-19影響・為替影響により減収減益。FY20は収益性改善に向けコスト削減等を実施

単位：億円



売上収益

調整後営業利益

EBIT

2020年度 第3四半期累計

5,587億円 (YoY 81%)

- ⊖ COVID-19影響
- ⊖ 為替影響

174億円 (YoY △404億円)

- ⊖ 売上収益減少
- ⊕ コスト削減等による収益性改善

136億円 (YoY △448億円)

- ⊖ 調整後営業利益減少

2020年度見通し (前回見通しから変更なし)

7,700億円 (YoY 83%)

- ⊖ COVID-19影響
- ⊖ 為替影響

390億円 (YoY △365億円)

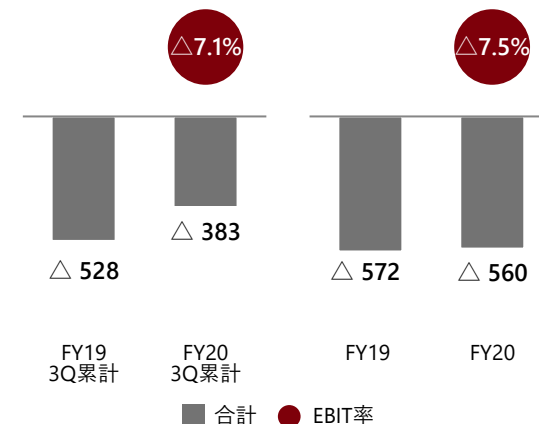
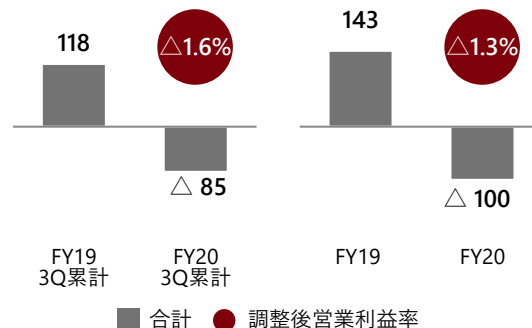
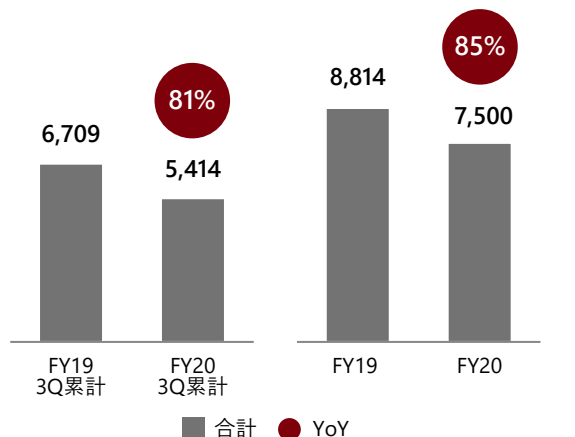
- ⊖ 売上収益減少
- ⊕ コスト削減等による収益性改善

370億円 (YoY △335億円)

- ⊖ 調整後営業利益減少

FY20 3Q累計は自動車向け需要減少等により減収減益、市況の回復によりFY20見通しを上方修正

単位：億円



売上収益

調整後営業利益

EBIT

2020年度 第3四半期累計

5,414億円 (YoY 81%)

⊖ 自動車向け需要減少

△85億円 (YoY △204億円)

⊖ 売上収益減少

△383億円 (YoY +145億円)

⊖ 調整後営業利益減少
⊕ 前年同期の磁性材料事業における固定資産及びのれんの減損損失

2020年度見通し (前回見通し比：売上収益が300億円、調整後営業利益が40億円の増加、EBITが20億円の減少)

7,500億円 (YoY 85%)

⊖ 自動車向け需要減少

△100億円 (YoY △243億円)

⊖ 売上収益減少

△560億円 (YoY +12億円)

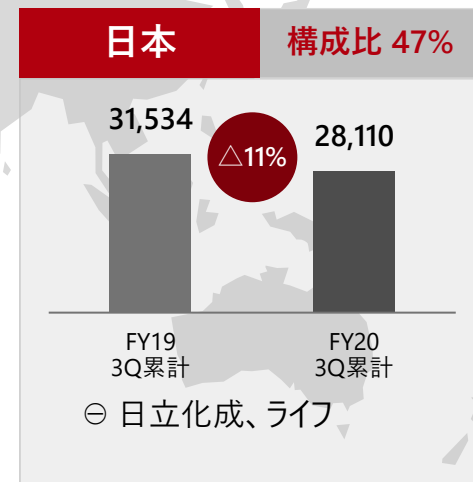
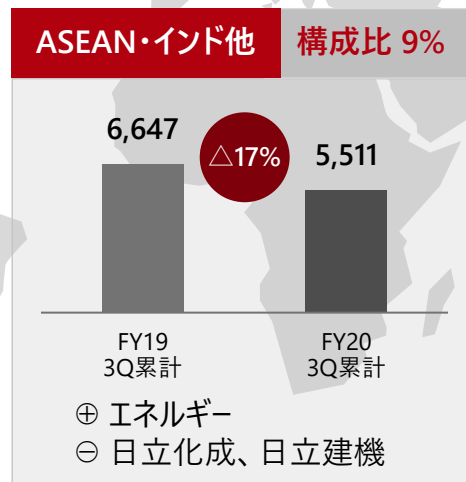
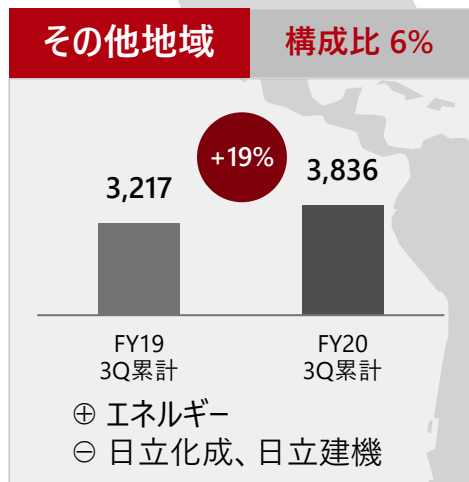
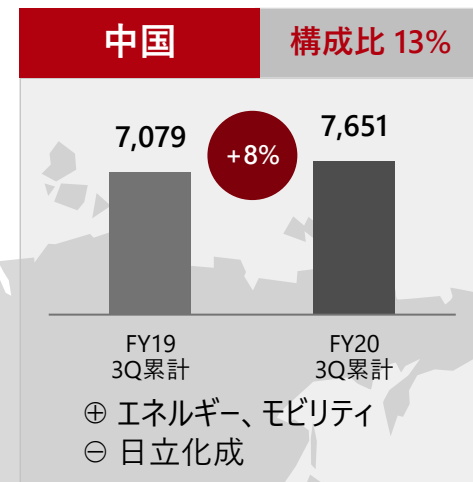
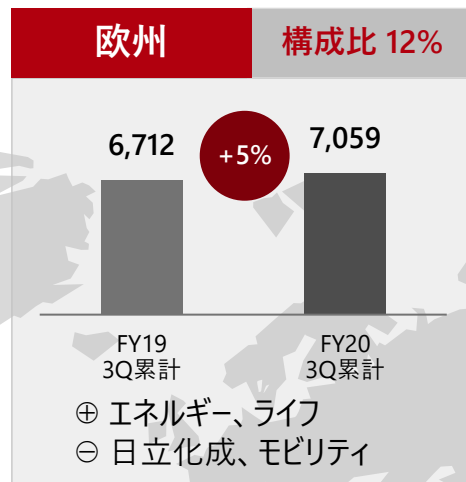
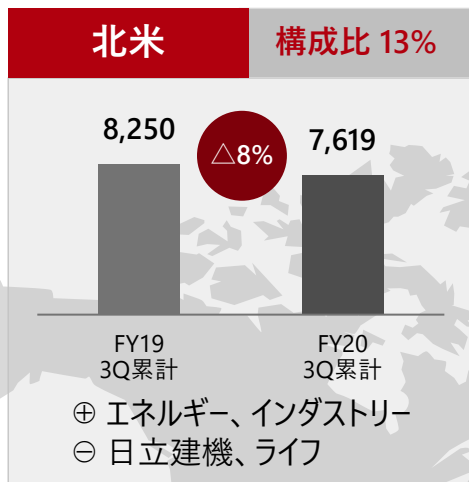
⊖ 調整後営業利益減少
⊕ 減損損失の減少

セグメント別 実績・見通し (1/2)

単位：億円		2019年度 3Q累計	2020年度 3Q累計	YoY	2019年度	2020年度 見通し	YoY	前回見通し比
IT	売上収益	14,942	14,338	96%	20,994	19,700	94%	100%
	調整後営業利益	1,656	1,739	+82	2,494	2,320	△174	+150
	調整後営業利益率	11.1%	12.1%	+1.0ポイント	11.9%	11.8%	△0.1ポイント	+0.8ポイント
	EBIT	1,581	1,617	+35	2,144	2,070	△74	+150
	EBITDA	2,368	2,400	+31	3,269	3,130	△139	+190
エネルギー	売上収益	2,457	7,559	308%	3,992	10,400	260%	102%
	調整後営業利益	△14	△87	△72	135	△140	△275	△60
	調整後営業利益率	△0.6%	△1.2%	△0.6ポイント	3.4%	△1.3%	△4.7ポイント	△0.5ポイント
	EBIT	△3,792	△105	+3,686	△3,757	△320	+3,437	△20
	EBITDA	△3,754	494	+4,249	△3,709	550	+4,259	±0
インダストリー	売上収益	5,549	5,500	99%	8,407	8,000	95%	103%
	調整後営業利益	255	239	△16	547	400	△147	+10
	調整後営業利益率	4.6%	4.4%	△0.2ポイント	6.5%	5.0%	△1.5ポイント	+0.0ポイント
	EBIT	302	259	△42	578	350	△228	+30
	EBITDA	450	437	△12	801	580	△221	+30
モビリティ	売上収益	8,326	8,626	104%	11,444	11,500	100%	103%
	調整後営業利益	613	593	△19	923	730	△193	△50
	調整後営業利益率	7.4%	6.9%	△0.5ポイント	8.1%	6.3%	△1.8ポイント	△0.7ポイント
	EBIT	916	701	△214	1,123	1,180	+56	+430
	EBITDA	1,140	938	△202	1,430	1,500	+69	+450
ライフ	売上収益	15,937	14,617	92%	21,676	21,000	97%	111%
	調整後営業利益	922	627	△294	1,189	1,000	△189	±0
	調整後営業利益率	5.8%	4.3%	△1.5ポイント	5.5%	4.8%	△0.7ポイント	△0.5ポイント
	EBIT	849	234	△615	900	1,800	+899	△200
	EBITDA	1,441	884	△557	1,708	2,850	+1,141	±0

セグメント別 実績・見通し (2/2)

単位：億円		2019年度 3Q累計	2020年度 3Q累計	YoY	2019年度	2020年度 見通し	YoY	前回見通し比
日立建機	売上収益	6,871	5,587	81%	9,313	7,700	83%	100%
	調整後営業利益	579	174	△404	755	390	△365	±0
	調整後営業利益率	8.4%	3.1%	△5.3ポイント	8.1%	5.1%	△3.0ポイント	±0.0ポイント
	EBIT	584	136	△448	705	370	△335	±0
	EBITDA	922	521	△401	1,176	880	△296	±0
日立金属	売上収益	6,709	5,414	81%	8,814	7,500	85%	104%
	調整後営業利益	118	△85	△204	143	△100	△243	+40
	調整後営業利益率	1.8%	△1.6%	△3.4ポイント	1.6%	△1.3%	△2.9ポイント	+0.6ポイント
	EBIT	△528	△383	+145	△572	△560	+12	△20
	EBITDA	△112	0	+113	△20	△60	△39	△30
その他	売上収益	3,516	3,161	90%	4,848	4,500	93%	100%
	調整後営業利益	168	126	△41	223	160	△63	+70
	調整後営業利益率	4.8%	4.0%	△0.8ポイント	4.6%	3.6%	△1.0ポイント	+1.6ポイント
	EBIT	267	160	△106	312	180	△132	+40
	EBITDA	492	399	△92	607	480	△127	+40
全社及び消去	売上収益	△5,668	△5,016	-	△8,132	△7,300	-	-
	調整後営業利益	△126	△159	△33	△146	△560	△413	+40
	EBIT	127	2,414	+2,286	153	1,730	+1,576	+530
合計	売上収益	63,441	59,790	94%	87,672	83,000	95%	105%
	調整後営業利益	4,456	3,169	△1,287	6,618	4,200	△2,418	+200
	調整後営業利益率	7.0%	5.3%	△1.7ポイント	7.5%	5.1%	△2.4ポイント	+0.1ポイント
	EBIT	549	5,035	+4,485	1,836	6,800	+4,963	+940
	EBITDA	3,731	8,554	+4,823	6,190	11,740	+5,549	+1,210



海外売上収益 **31,679** 億円 構成比 **53** %

単位：億円

- *1 調整後営業利益は、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費の額を減算して算出した指標です
- *2 EBITは、継続事業税引前利益から受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。EBIT(受取利息及び支払利息調整後税引前利益)は、Earnings before interest and taxesの略です
- *3 EBITDAは、継続事業税引前利益から受取利息の額を減算し、支払利息及び減価償却費(有形および無形)を加算して算出した指標です。EBITDA(受取利息、支払利息及び減価償却費調整後税引前利益)は、Earnings before interest, taxes, depreciation and amortizationの略です
- *4 「5セクター」の合計は、「連結 合計」から「上場子会社」の合計の数値を差し引いたもので、その他と全社及び消去の数値を含みます
- *5 2019年度の上場子会社合計には、日立化成の業績を含めています
- *6 買収に伴う無形資産等の償却費は、買収直後に被買収会社の資産・負債を時価評価し、のれんから無形資産等に振り替え、当該無形資産等を一定の耐用年数で償却した費用。支払済みの取得対価の内数であり、ノンキャッシュ費用
- *7 コア・フリー・キャッシュ・フローは、フリー・キャッシュ・フローから、M&Aや資産売却他にかかるキャッシュ・フローを除いた経常的なキャッシュ・フローです
- *8 Adjusted EBITAは、調整後営業利益から買収に伴う無形資産等の償却費の額を減算して算出した指標です
- *9 金融、公共、社会インフラ(電力、交通、通信等)向けシステムインテグレーション、ソフトウェア・ハードウェアの販売、保守・メンテナンス及び関連サービス、コンサルティング他
- *10 制御システム、ストレージ、サーバ、ならびに関連ソフトウェア・サービスの販売、保守・メンテナンス他
- *11 2019年度第3四半期累計および2019年度の実績には日立ABBパワーグリッドの業績は含まれていません
- *12 ITセグメントに計上されている制御システム事業を含んでいます
- *13 第3四半期累計(2019年度・2020年度)および2019年度の実績にはケーヒン、ショーワ、日信工業の業績は含まれていません
- *14 2020年度より、計測分析システム事業(日立ハイテク)の数値はライフセグメントに計上されています。ライフセグメントの実績・見通しの対前年度比較は、この変更を2019年度に遡及した数値と比較しています

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果は見通しと大きく異なることがあります。その要因のうち、主なものは以下の通りです。

- ・COVID-19の流行による社会的・経済的影響の悪化
- ・主要市場における経済状況及び需要の急激な変動
- ・為替相場変動
- ・資金調達環境
- ・株式相場変動
- ・原材料・部品の不足及び価格の変動
- ・長期請負契約等における見積り、コストの変動及び契約の解除
- ・価格競争の激化
- ・人材の確保
- ・新技術を用いた製品の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当社及び子会社の能力
- ・製品等の需給の変動
- ・製品等の需給、為替相場及び原材料価格の変動並びに原材料・部品の不足に対応する当社及び子会社の能力
- ・信用供与を行った取引先の財政状態
- ・社会イノベーション事業強化に係る戦略
- ・企業買収、事業の合併及び戦略的提携の実施並びにこれらに関連する費用の発生
- ・事業再構築のための施策の実施
- ・主要市場・事業拠点(特に日本、アジア、米国及び欧州)における政治・社会状況及び貿易規制等各種規制
- ・持分法適用会社への投資に係る損失
- ・コスト構造改革施策の実施
- ・地震・津波等の自然災害、気候変動、感染症の流行及びテロ・紛争等による政治的・社会的混乱
- ・当社、子会社又は持分法適用会社に対する訴訟その他の法的手続
- ・製品やサービスに関する欠陥・瑕疵等
- ・情報システムへの依存及び機密情報の管理
- ・自社の知的財産の保護及び他社の知的財産の利用の確保
- ・退職給付に係る負債の算定における見積り

HITACHI
Inspire the Next 